

日本土壌微生物学会 2018年度 定期総会資料

2018年6月17日(日) 12:45～13:45(予定)

於 広島大学 総合科学部K棟K108

総会次第

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 2017年度事業報告
 - 1) 大会報告
 - 2) 会誌出版・編集報告
 - 3) 幹事会報告
 - 4) 会計関係報告
5. 2018年度事業計画
 - 1) 事業計画案
 - 2) 予算案
 - 3) 名誉会員の選考案
 - 4) 選挙管理委員会設置案
 - 5) 土壌微生物学会基金設立案
 - 6) 「土と微生物」J-STAGEでの公開案
6. その他
7. 議長解任
8. ポスター賞受賞者発表
9. 次年度大会実行委員長挨拶
10. 閉会の辞

2017年度事業報告

1) 2017年度大会

環境微生物系学会合同大会2017は、2017年8月29日(火)から31日(木)、東北大学川内キャンパスにおいて開催した。大会参加者総数は1,307名、発表演題数506(口頭134、ポスター372)、シンポジウム演題数98(20シンポジウム)であった。本学会員が発表した大会最優秀ポスター賞として以下の8件が選ばれた。

- ・石田 真由, 藤本 尚志, 大西 章博, 蔣 紅与, 渡辺 智, 兼崎 友, 石毛 太一郎
「貧栄養ダム湖におけるアンモニア酸化古細菌の鉛直分布および分子系統」
- ・Akiko Ebihara, Yong Guo, Takashi Kamijo, Tomoyasu Nishizawa, Hiroyuki Ohta
「Colonization of *Burkholderia* groups on the rhizosphere of the Miyake-jima pioneer plant」
- ・佐野 友紀, 木原 稔, 堀 知行, 曾根 輝雄, 菊池 義智, 伊藤 英臣
「メダカ卵表面に発達する細菌叢の動態と機能」
- ・大竹 遥, 菅原 雅之, 高橋 智子, 南澤 究
「共生不和合性を利用した *Bradyrhizobium* 属根粒菌ゲノムの実験室進化：共生アイランドの大規模欠失」
- ・居石 優子, 龍田 典子, 亀井 勇統, 上野 大介, 染谷 孝
「阿蘇の野草堆肥及び野草牛ふん堆肥に含有する拮抗菌の同定及びその抗菌物質に関する研究」
- ・鶴見 拓哉, 渡部 悠樹, 太田 和秀, 森田 更紗, 磯部 百葉, 高階 史章, 金田 吉弘, 古屋 廣光, 佐藤 孝
「長期ダイズ連作圃場で使用されている乾燥鶏糞のダイズ黒根腐病菌の抑制効果の解析」
- ・鈴木 研志, 本荘 雅宏, 西村 朋香, ファティマ アズワニ, 田代 陽介, 二又 裕之
「合成微生物生態系における異属菌株の共存と代謝」
- ・西岡 友樹, 須賀 晴久, 清水 将文
「ネギ類栽培土壌のウリ類つる割病抑止性にはグラム陰性拮抗菌が関与する」

2. 会誌出版・編集報告

1) 「土と微生物」出版報告

- ① Vol. 71 - 1 (2017年4月発刊) 36頁：巻頭言, シンポジウム 2編, 原著論文 2編, 総説 1編, 書評, *Microbes and Environments* 目次 (Vol. 31-3, 31-4)
- ② Vol. 71 - 2 (2017年10月発刊) 58頁：総説 1編, 原著論文 2編, 環境微生物系合同大会 2017 講演要旨 (日本土壌微生物学会会員分), *Microbes and Environments* 目次 (Vol. 32-1, 32-2)
- ③ Vol. 72 - 1 (2018年4月発刊) 65頁：巻頭言, 特別企画 (服部勉先生へのインタビュー記事), シンポジウム 3編, 原著論文 2編, ノート 1編, 書評, こんなことが、いま, *Microbes and Environments* 目次 (Vol. 32-3, 32-4)

2) 土と微生物 投稿状況(2018年6月1日)

	原著論文			シンポジウム・総説・解説		
	受付	受理	審査中	受付	受理	審査中
2018	1	0	1	2	2	0
2017	5	4	0	3	3	0
2016	6	5	0	8	8	0

3. 幹事会報告

1) 2017年度第2回幹事会

日時:2017年11月23日(木曜日、祝日)

場所:名古屋大学農学部

(報告事項)

- ①会計担当幹事が2017年10月現在の会員動向について報告した。
 - ・正会員数 433人(5月から4名増、入会6名、退会4名)
 - ・購読会員 34機関37口(増減なし)
 - ・賛助会員 19社23口(増減なし)
- ②会計担当幹事が2017年度会計報告及び2017年度会計監査の結果について報告した。
- ③編集委員長が土と微生物誌の投稿状況について報告した。
- ④幹事長が2017年度合同大会について報告した。
- ⑤幹事長が日本農学会運営委員会について報告した。
- ⑥幹事長が日本学術会議関連について報告した。
- ⑦企画幹事が国際土壌の10年企画について報告した。
- ⑧企画幹事が若めの会の活動について報告した。

(審議事項)

- ①2018年大会実行委員長が準備状況を報告した。日時、会場、シンポジウム、参加・発表申込手続等、審議の上、了承した。
- ②幹事長、企画幹事(M&E誌 Production Editor)よりM&E誌の審査出版ワークフローと掲載料の変更についての日本微生物生態学会からの検討依頼の経過説明があった。幹事会としてはM&E誌の審査出版ワークフローの変更と掲載料の値上げの提案を了承し、評議員会(メール審議)での検討を行うこととした。また、提案が了承された場合には、学会HPで周知するとともに、特に会員の掲載料の値上げについては会員からの意見聴取の機会を設けることとした。
- ③太田会長より会則に明記された基金について、規模や用途について今後タスクフォースで検討したいとの提案があり、了承された。
- ④太田会長より、名誉会員の推薦のため候補者や推薦方法などの検討を進めたいとの提案があり、了承された。

2) 2018年度第1回幹事会

日時:2018年5月19日(土曜日)

場所:茨城大学農学部

(報告事項)

- ①総務担当幹事が2018年5月現在の会員動向について報告した。
 - ・正会員数 434人(2017年10月から1名増、入会31名、退会30名)
 - ・購読会員 32機関35口(2017年10月から退会2機関)
 - ・賛助会員 19社23口(増減なし)
- ②会計担当幹事が2017年度会計報告及び2017年度会計監査の結果について報告した。
- ③編集委員長が土と微生物誌の投稿状況について報告した。
- ④総務担当幹事が日本農学会運営委員会について報告した。
- ⑤幹事長が日本微生物生態学会について報告した。
- ⑥総務担当幹事が日本学術会議関連について報告した。
- ⑦日本学術会議等関連委員より、日本学術会議農学分科会およびIUSS分科会について報告した。
- ⑧企画幹事が若めの会の活動について報告した。

(審議事項)

- ①会計担当幹事が2018年度予算案を提案し審議した。さらに検討の上、評議員会へ提案することとした。
- ②2018年度大会実行委員長が会場、講演要旨集、受付等の準備状況を報告し、審議の上、了承した。

- ③太田会長が 2019 年度大会について、開催場所、会期、大会委員長について説明し、審議の上、了承した。
- ④総務担当幹事が名誉会員の推薦のため候補者や推薦方法の提案があり、審議の上、了承した。
- ⑤幹事長より土壌微生物学会基金設立について、基金の目的を人材育成とすることが提案され、検討の上、評議員会へ提案することとした。また、企画幹事をタスクフォースとすることが提案され、審議の上、了承した。
- ⑥2019-2020 年度評議員選挙の選出プロセスとスケジュールの概略を提案し、審議の上、了承した。

4. 会計関係報告(別紙 1 参照)

1) 2017 年度会計報告

2) 2017 年度会計監査報告

2018 年 4 月 19 日、唐澤敏彦、浦嶋泰文両氏による会計監査が行われ、支出収入に誤りのないことが確認された。

2018年度事業計画

1. 2018 年度事業計画案

1) 2018 年度大会を 6 月 16 日(土)から 17 日(日)に開催する。

2) 学会誌「土と微生物」を発行する。

3) 2019 年度大会を北海道で開催するための準備を進める。

2. 2018 年度予算案(別紙 2 参照)

3. 名誉会員の選考について(別紙 3 参照)

4. 2019-2020 年度評議員選挙の進め方について

1) 選挙管理委員長候補として、浅川氏(名古屋大)を提案すること

2) 選挙管理委員会の構成を学会事務局(総務担当幹事及び会計担当幹事)とすること

3) 地方選出評議員による会長及び副会長の選出作業の中心となる、世話役候補を選挙管理委員長が指名すること

4) 大まかなスケジュール

・2018 年 5 月 19 日 幹事会

・2018 年 6 月 16 日 評議員会

・2018 年 6 月 17 日 総会にて選挙管理委員会承認、正式に活動開始

・2018 年 11 月〇日 公示期限

・2019 年 1 月〇日 投票期限

・2019 年 1 月末を目処 地方選出評議員当選者の確定

・2019 年 2~3 月を目処 地方選出評議員による会長(及び副会長)の選出

・2019 年 4 月を目処 会長指名評議員 8 名(及び副会長)の確定

5. 土壌微生物学会基金設立について

1) 背景

これまでの評議員会等で、学会の年間予算300万円に対して、各会計年の繰越金が約 600 万円計上されており、学会予算を効果的に使用すべきことが指摘されてきた。

2) 検討事項

- ① 繰越金のうち500万円は基金化し、残りは予備費とする。
- ② 基金の主たる使用目的は、学会の学術活動を発展させ、運営を担っていく人材の育成とする。
- ③ 人材育成に資する基金の使途（支援の種類等）は、学会内にタスクフォースを設置して、原案を作成する。
- ④ 上記③と並行して、基金制度の大枠について、学会事務局が検討し原案を作成する。
- ⑤ 上記③と④の原案は、次年度の学会総会に提案し、審議する。

6. 「土と微生物」の J-STAGE での公開制限期間の変更について

1) 背景

J-STAGE では発行後 1 年以内の「土と微生物」誌を会員のみ公開していたが、この設定では前年度 10 月発行の 2 号のパスワードが翌年 4 月に前年度のものから新年度のパスワードに変わってしまうため、混乱を来す恐れがある。それを回避するためには、全会員に J-STAGE 用の ID とパスワードを前年度分と新年度分の 2 セットを配布しなくてはならないが、それでは ID とパスワード管理が煩雑となり、余計に混乱を来すことが予想される。

2) 検討事項

本誌の J-STAGE での公開制限を「発行後 1 年間は会員のみ公開」ではなく、「最新巻は会員のみ公開」に変更することを提案したい。このことにより、今まで通り、会員は 1 つの ID と 1 つのパスワードで最新巻の「土と微生物」を閲覧できる。ただし、この処置により、10 月発行の 2 号については公開制限が 1 年間ではなく半年間となる。（4 月発行の 1 号については現行通り 1 年間の公開制限となる。）

日本土壌微生物学会 2017年度会計報告 (2018.3.31現在)

①2017年度収入の部					
項目	予算額	決算額	差額	執行率	備考
前年度繰越金	6,899,994	6,899,994			
正会員費	2,090,000	1,919,724	-170,276	92%	計383件*5,000円(2018年度分納入者、251名)+海外4,724円(国際郵便為替)
購読会員費	216,000	216,000	0	100%	36口*6,000円 (2017年度34機関37口のうち)
賛助会員費	230,000	230,000	0	100%	19社23口*10,000円
M&E誌代金	140,000	150,000	10,000	107%	30件*5,000円 (2018年度22件)
大会運営費返金	0	0	0	100%	
雑収入	50,000	54,440	4,440	109%	利子、印税および著作権料44,440円、パナー広告掲載料10,000円など
小計(単年度収入分)	2,726,000	2,570,164	-155,836	94%	
合計(繰越金を含む)	9,625,994	9,470,158	-155,836	98%	
②2017年度支出の部					
項目	予算額	決算額	差額	執行率	備考
会誌刊行費	1,400,000	1,133,754	-266,246	81%	Vol.71No.1(534,750円)、Vol.71No.2(687,004円)、J-STAGEデータ入力カリアルバイト代(12,000円)
大会運営費	200,000	0	-200,000	0%	合同大会より請求なし
日本農学会分担金	53,000	0	-53,000	0%	次年度に合算して支払い予定
学術シンポ等補助	30,000	10,000	-20,000	33%	若めの会講演謝金
M&E誌印刷・発送手数料	170,000	158,096	-11,904	93%	Vol.32(No.1~4)
M&E誌共同編集・出版費	200,000	200,000	0	100%	
公開シンポジウム・出前授業経費	10,000	0	-10,000	0%	
事務費	895,000	789,763	-105,237	88%	
事務管理費	85,000	51,201	-33,799	60%	ホームページ使用料、ウイルス対策ソフト、名簿管理ソフト
旅費交通費	550,000	520,860	-29,140	95%	幹事会、会議出席旅費
会議費	10,000	5,299	-4,701	53%	幹事会お茶代
通信郵送料	120,000	98,052	-21,948	82%	会誌等郵送、会費再請求
文房具費	15,000	5,113	-9,887	34%	ファイル、CDケース、マジック、テープなど
諸印刷費	100,000	107,078	7,078	107%	会費請求・再請求、大会案内、名古屋大事務局印刷費(2016-17年度)等
雑費	15,000	2,160	-12,840	14%	振込手数料
小計(単年度支出分)	2,958,000	2,291,613	-666,387	77%	
小計(次年度繰越金)	6,667,994	7,178,545	510,551	108%	
合計(繰越金を含む)	9,625,994	9,470,158	-155,836	98%	

③財産目録（2018年3月31日現在）

項 目	金 額
現金	12,210
郵便振替口座	15,000
郵貯銀行通常貯金	7,106,335
常陽銀行普通預金	45,000
財産合計	7,178,545

(4) 備品目録（2017年3月31日現在）

項 目

ノートパソコン

プリンタ

会員管理ソフト

HPビルダー


Mac用Ethernetアダプタ

2017年度 会計監査報告

本日、金銭、出納簿、預金通帳および各種領収書について詳細に監査した結果、各帳簿、領収書ともに極めて整然としており、支出収入に誤りのなかったことを報告いたします。

日本土壤微生物学会会計監査委員

氏名

唐澤敏彦 

平成30年4月19日

氏名

浦嶋泰文 

平成30年4月19日

日本土壌微生物学会 2018年度予算案

項目	参考(2017年度)		参考(2016年度)	
	予算額	決算額	予算額	決算額
(1) 2018年度収入の部				
前年度繰越金	7,178,545			
正会員費	2,110,000	6,899,994	6,899,994	6,617,121
購読会員費	210,000	216,000	216,000	222,000
賛助会員費	230,000	230,000	230,000	260,000
M&E誌代金	110,000	140,000	150,000	145,000
大会運営費返金	300,000	0	0	305,219
雑収入	50,000	50,000	54,440	64,304
小計(単年度収入分)	3,010,000	2,726,000	2,570,164	3,002,012
合計(繰越金を含む)	10,188,545	9,625,994	9,470,158	9,619,133
(2) 2018年度支出の部				
項目	予算額	算出方法	参考(2017年度)	参考(2016年度)
会誌刊行費	1,520,000	Vol.72No.1(657,585円)、Vol.72No.2(85万円)、J-STAGE データ入力アルバイト代(1万2千円)	1,400,000	1,133,754
大会運営費	300,000		200,000	0
日本農学会分担金	106,000	前年度未払分53,000円＋今年度分53,000円	53,000	0
学術シンポジウム等補助	40,000	若めの会、講師謝金2万円×2名	30,000	10,000
M&E誌印刷・発送手数料	170,000	Vol.33(No.1～4)の4冊分	170,000	158,096
M&E誌共同編集・出版費	200,000	確定額	200,000	200,000
公開シンポジウム・出前授業経費	100,000	公開シンポジウム代、講師旅費など	10,000	0
事務費	455,000		895,000	789,763
事務管理費	15,000	ホームページ使用料1,600円、ウイルス対策ソフト1万円など	85,000	51,201
旅費交通費	150,000	幹事会10万、諸会議出席費5万	550,000	520,860
会議費	40,000	幹事会1万、評議員会弁当代3万	10,000	5,299
通信郵送費	120,000	会費請求8万、会誌送付1万、郵便・宅急便3万	120,000	98,052
文房具費	10,000	会議資料、会費請求、封筒など	15,000	5,113
諸印刷費	110,000	振込手数料など	100,000	107,078
雑費	10,000		15,000	2,160
小計(単年度支出分)	2,891,000		2,958,000	2,291,613
小計(次年度繰越金)	7,297,545		6,667,994	7,178,545
合計(繰越金を含む)	10,188,545		9,625,994	9,470,158

別紙3 名誉会員の選考について

名誉会員候補者の推薦の申し合わせ

会長が名誉会員候補者を推薦する場合には、推薦内規に沿って評議員会に諮るものとする。

(名誉会員候補者の推薦内規)

1. 名誉会員候補者の推薦は本学会の正会員が行う。
2. 名誉会員候補者の推薦は次の推薦基準に基づいて行う。

(名誉会員候補者の推薦基準)

名誉会員候補者に推薦される者の基準は、原則として本学会の正会員のうち、1月1日現在、満年齢70歳に達した者で、次の各号の一に該当することを要する。

1. 本学会会長の経歴を有する者
2. 本学会の発展に多大の貢献した者
3. 優れた業績により、土壌微生物学の発展に特に功労した者